



南本牧ふ頭 航空写真 撮影：2007年1月



発行：横浜市港湾局港湾整備部南本牧事業推進担当  
〒231-0023 横浜市中区山下町2番地  
産業貿易センタービル5階  
TEL045-671-7305 FAX045-671-7310  
平成20年3月発行  
横浜市広報印刷物登録 190623号 類別・分類 C-LA120  
港湾局ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/port/>  
南本牧ふ頭ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/port/mhonmoku/mhonmoku.html>



### 南本牧大橋

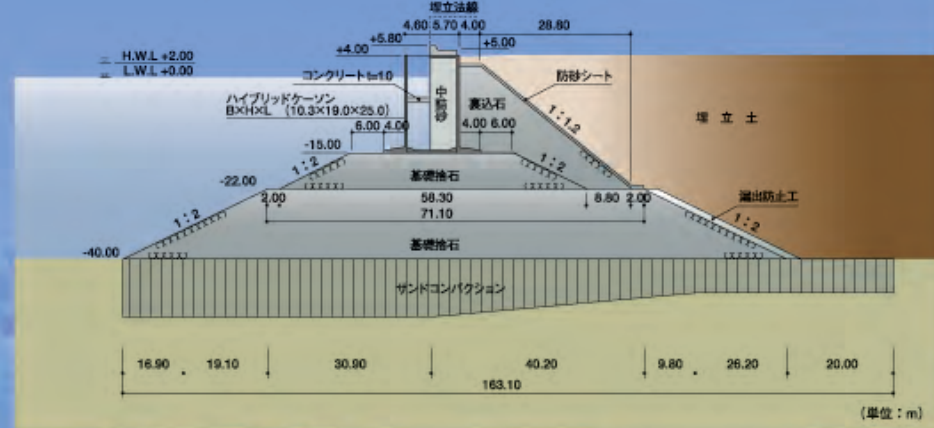
南本牧ふ頭にアクセスする橋梁で、南本牧ふ頭のシンボルゲートになります。

構造形式：3径間連続鋼斜張橋  
橋長：300m  
幅員：26.3m～28.3m  
幅員構成：車道4車線、両側歩道



### 外周H-1護岸

南本牧ふ頭は深いところで-40mという大水深を埋立てて造られますが、ここは更に海底面下30mにも及ぶ軟弱地盤があります。この軟弱地盤を改良した上に造られる護岸は世界的にもあまり例を見ません。



# Port of YOKOHAMA 南本牧ふ頭

アジア諸国の目覚ましい経済発展に伴って、アジア域内では国際海上コンテナによる貨物輸送量が増大しています。また、北米や欧州を結ぶ基幹航路等においては、輸送能力や輸送効率を向上させるため、更なるコンテナ船の大型化や寄港地の集約化が進んでいます。

横浜港では、このような国際物流・海運動向に的確に対応し、国際競争力の強化を図るため、南本牧ふ頭において大水深・高規格コンテナターミナルの整備を進めており、平成13年4月にはMC-1・2コンテナターミナルの供用を開始しました。

また、平成19年度からは、世界最大級の水深20m岸壁を跨るMC-3コンテナターミナルの整備に着手しています。

一方で南本牧ふ頭は、快適な市民生活を支える役割を担っており、第2ブロックに引き続き、環境に配慮した廃棄物最終処分場を第5ブロックに新たに設置します。

大水深・高規格コンテナターミナル：大型化が進むコンテナ船へ対応するため整備されるコンテナターミナルで、一般的に「岸壁延長350m、水深15m以上」のものを指します。

### 事業概要

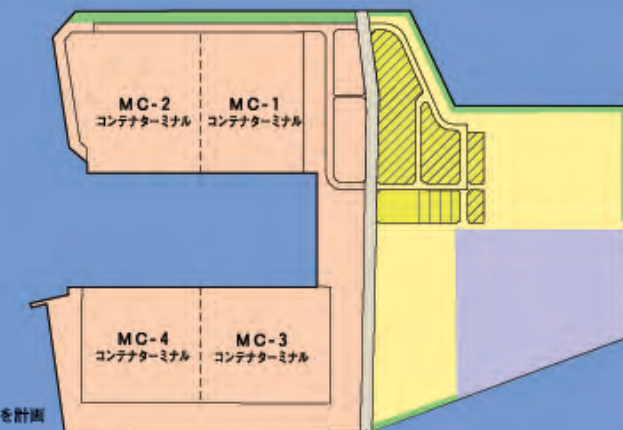
#### ●事業目的

- コンテナ貨物取扱量の増加、コンテナ船の大型化に対応する大水深・高規格コンテナターミナルの整備
- 港湾物流の多様化に対応した総合物流拠点の形成
- 市内から発生する公共建設発生土、廃棄物等の長期的・安定的受入れ

#### ●ふ頭の土地利用（横浜港港湾計画）

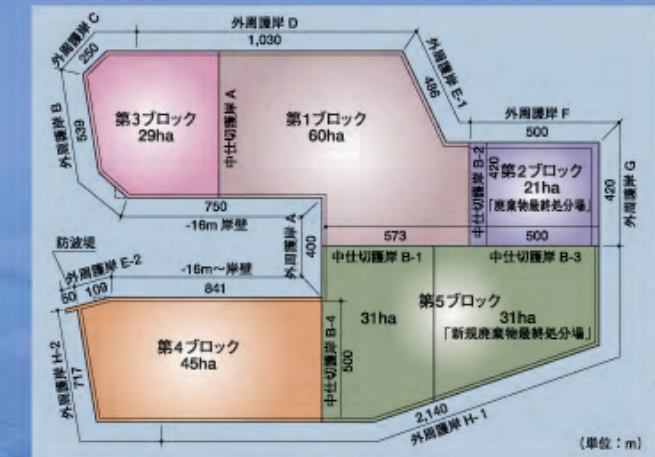
ふ頭用地	115.6ha
港湾関連用地	55.2ha
売却済み用地	11.4ha
売却予定地	3.0ha
緑地	8.9ha
交通機能用地	5.9ha
海面処分用地(※)	31.1ha
合計	216.5ha

※符号横線：海面処分用地の緑地は、港湾関連用地(18.1ha)と緑地(13.0ha)を計画



#### ●埋立計画

- 埋立面積 約217ha
- 埋立量 約6,900万m<sup>3</sup> (廃棄物を含む)
- 埋立方法 全体を5ブロックに分割し埋立て



# 南本牧ふ頭高規格コンテナターミナル整備事業概要

# Port of YOKOHAMA 南本牧ふ頭

# 第5ブロック処分場整備事業

## 南本牧ふ頭コンテナターミナルの特長

- ① 北米航路のファースト・ラストポート（北米発東アジア向けの最初港、東アジア発北米向けの最終港）になります。
- ② 東京湾口に最も近い位置にあるコンテナターミナルで、船の運航時間の短縮が図られます。



- ③ 水深の深い海域に位置しており、しゅんせつすることなく、コンテナ船の大型化に対応した大水深岸壁の整備が可能です。

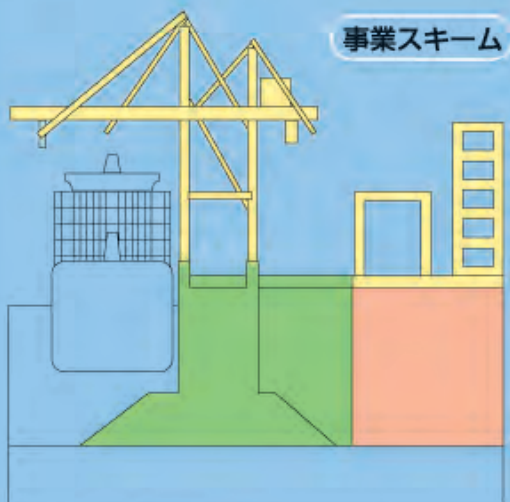


- ④ 高速道路網が整備されています。（首都高速湾岸線南本牧ふ頭出入口まで約5分）  
横浜港の背後圏は首都圏から広く東日本に及んでおり、背後圏各地とは自動車専用道路等のネットワークで結ばれています。さらに首都圏中央連絡自動車道（圏央道）等の環状道路ネットワークの整備が進められており、横浜港と背後圏とのアクセスは今後さらに向上していきます。

## 新たに整備を進める MC-3・4コンテナターミナルの概要

世界最大級、我が国初となる水深 20mを有する岸壁の整備

**事業目的**  
コンテナ取扱量の着実な増加に加え、世界的には基幹航路におけるコンテナ船の超大型化が進展しています。このような物流・海運動向に的確に対応し、国際競争力強化を図るため、MC-3・4コンテナターミナルについて整備を進めてまいります。そのうち、MC-3コンテナターミナルについては、平成24年度内の供用を目指しています。



**事業スキーム**  
岸壁整備 国施行による直轄事業  
用地造成 市施行による起債事業  
ターミナル整備 検討中



高規格コンテナターミナル整備事業 (MC-3・4)

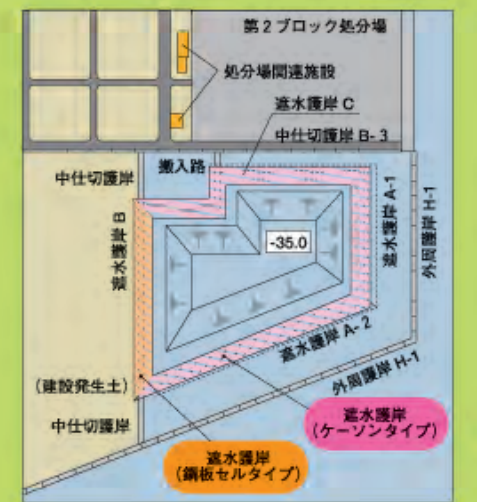
完成イメージパース（横浜港港灣計画に基づく、実際とは異なる場合があります。）

## 事業目的

市民の生活から生じる廃棄物を長期にわたり、安定して受入れるため、新しい処分場を整備していきます。

## 処分場の概要

- ・ 処分場の種類 : 管理型処分場
- ・ 処分場面積 : 約16.4ha（遮水護岸内側）
- ・ 受入廃棄物 : 一般廃棄物、産業廃棄物
- ・ 受入期間 : 埋立て開始から概ね50年
- ・ 遮水護岸延長 : 約1,700m
- ・ 開設予定時期 : 平成26年度を目指しています。



## 整備計画概要

- ・ 廃棄物を投入する区画から外部に水が漏れないよう、第5ブロック内に遮水性を有する護岸（遮水護岸）を建設します。
- ・ 処分場の管理・運営に必要な施設（車両通行路・管理棟・排水処理施設等）の整備を行い、廃棄物の受入れを開始します。

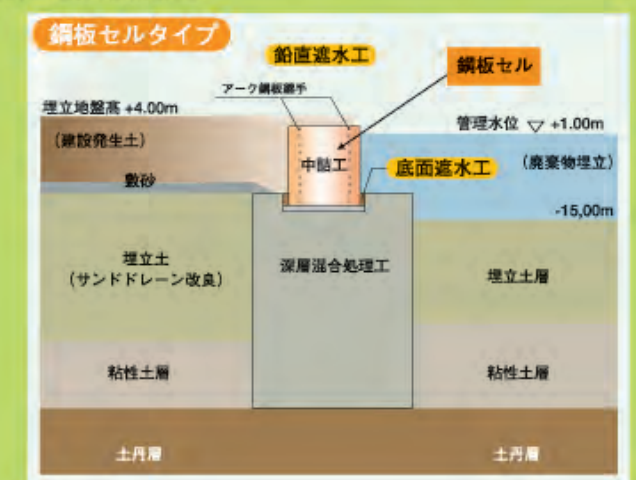
## 遮水護岸

遮水護岸の構造については、廃棄物を投入する水域と周囲を仕切る「本体部分」と、本体部分を支えるための「基礎部分」に分けられます。

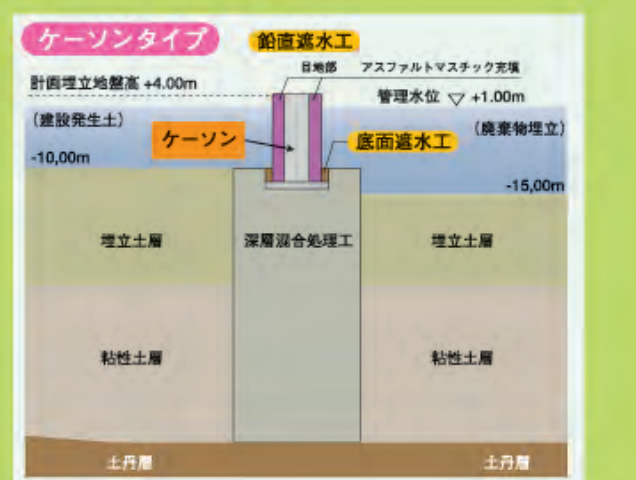
設計にあたっては、廃棄物の埋立方法を工夫（※）することなどにより、できる限り建設費の削減を図っています。

（※）一部の区間では、遮水護岸内側への廃棄物の投入に合わせて、外側の建設発生土を埋立てることで、遮水護岸に片側から大きな力が加わらないように埋立てを工夫する計画としています（均等埋立て）

## 遮水護岸断面図



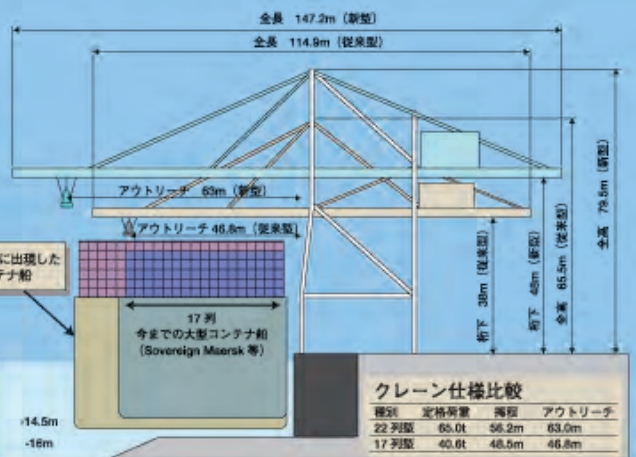
\* 基礎部分  
深層混合処理（CDM※）工法による地盤改良を行います。（※Cement Deep Mixingの略）  
水面下に堆積している軟弱土砂（粘性土層、埋立土層）をセメントと攪拌することで、本体部分を  
支えられるよう強化するとともに、遮水性を確保します。



\* 本体部分  
「鋼板セルタイプ」と「ケーソンタイプ」の2種類の構造形式で整備します。

## MC-1・2コンテナターミナル

- ・ 水深16m岸壁としては、国内初の供用（H13.4.1）
- ・ (財)横浜港埠頭公社の施設（そのうちMC-1は公共岸壁）
- ・ 世界最大級のメガガントリークレーン（22列対応）を装備

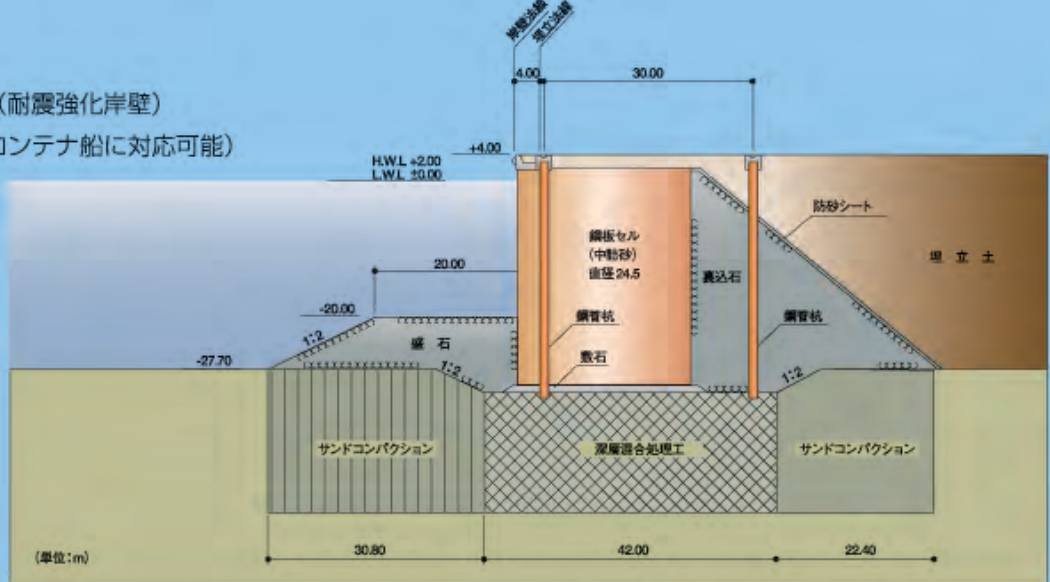


バース名	延長 (m)	水深 (m)	けい船能力 (D/W)	ガントリークレーン 基数	ターミナル面積 (m <sup>2</sup> )	リーファー プラグ口数	設置可能コンテナ数 (TEU)	荷役方式
MC-1	350	16	105,000	2(※)	175,000	312	9,100	トランスファークレーン
MC-2	350	16	105,000	3	229,000	852	12,200	トランスファークレーン
合計	700			5(※)	404,000	1,164	21,300	

（※：現在、MC-1に1基増設中であり、MC-1は3基となり、MC-1・2合計で6基となります）

## MC-3岸壁の概要

- ・ 整備方式：国直轄事業
- ・ 構造形式：鋼板セル方式（耐震強化岸壁）
- ・ 岸壁水深：20m（超大型コンテナ船に対応可能）
- ・ 岸壁延長：400m



（公有水面埋立承認業務：国土交通省 関東地方整備局による）

## 総合物流拠点の形成

新しい物流形態にも対応可能な各種機能を有する最新鋭の流通ターミナルなどの誘致を進めることによって、港湾物流の多様化に対応した総合物流拠点の形成を目指しています。

平成15年度から埋立地の一部の分譲を行っており、平成20年3月現在で5社に売却し、4社が既に稼働しています。



## 建設発生土受入事業

現在、南本牧ふ頭では、横浜市内から発生する公共建設発生土、横浜港内から発生するしゅんせつ土を中心に受入れ、埋立地の造成を行っています。

陸上運搬の場合、北部方面は鶴見区の大黒ふ頭中継所、南部方面は金沢区の幸浦中継所で受入れた後、船で南本牧ふ頭まで運搬します。

また、海上運搬の場合は中継所を経由せず、直接南本牧ふ頭で受入れます。

なお、建設発生土受入業務は、(財)横浜港埠頭公社へ委託しています。

